



「森林空間情報を活用できる人材をどう増やしていくか」

主催：森林 GIS フォーラム <https://fgis.jp/>

後援：林野庁、森林総合研究所、森林計画学会

日時：2025年12月15日（月）10:00-17:00

場所：鉄鋼会館 801会議室 シンポジウム

701会議室 賛助会員による森林 GIS 等の展示 11:00～16:00

（〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10）

<https://www.tekko-kaikan.co.jp/>

森林は国土保全や地球温暖化防止、木材供給など多面的な機能を担い、国民生活と経済を支えています。これらの機能を維持増進させていくには、森林の適切な経営管理が必要です。森林 GIS の普及に加えて、近年の航空レーザ計測の進展やその成果のオープンデータ化など、現在整備されてきている森林空間情報を活用すれば、森林政策立案や林業経営がこれまでになく効率化されることが期待されています。

一方で、森林政策立案や林業経営などの現場では、こうした情報を実務に活用できる人材やその受け皿が不足していることが以前から大きな課題とされてきました。行政や経営の実務に必要十分な森林空間情報を活用できる人材を現場でどう増やしていくか、また、専門教育を受けた人材の不足や担当者の異動といった業界の特性にどのように対処すべきかが、あらためて問われています。

本シンポジウムでは、森林空間情報の現場活用や人材育成に関わる様々な立場の方々に話題提供をいただき、情報活用の場面をどのようにひろげてきたのか、さまざまな取組を共有し、今後さらに必要されるスキルや知識の伝達方法、動機づけのあり方などを議論していきたいと考えています。

※森林空間情報（森林 GIS、レーザの成果、GNSS、空間情報等）

<<プログラム>>

■受付 9:30～

■賛助会員による森林 GIS 等のデモ 11:00～16:00 (7F 701 会議室)

アジア航測株式会社、株式会社アドイン研究所、ESRI ジャパン株式会社、株式会社ジツタ、
株式会社竹谷商事、一般社団法人日本森林技術協会、パシフィックコンサルタンツ株式会社、
株式会社パスコ、標準仕様分科会

■シンポジウム 10:00～17:00 (8F 801 会議室)

10:00～10:05 開会あいさつ

10:05～10:15 「令和 8 年度の事業概要」 横山愛那氏 (林野庁計画課)

10:15～11:05 基調講演 「林業技術者が求める高度森林情報の利用と育成」

枚田邦宏氏 (鹿児島大学名誉教授)

11:05～11:15 小休憩

11:15～11:35 「現場で活用できる GIS 技術者を増やすための取り組み」

高橋雅博氏 (渋川広域森林組合)

11:35～11:55 「実務でのデータ使用を促すことによる林業事業体の森林 GIS 活用に向けた取組」

山本章平氏 (雲南省農林振興部)

11:55～14:00 賛助会員展示 701 会議室 および 昼休憩

14:00～14:20 「林業普及指導職員によるスマート林業推進の取組について」

佐藤祥太氏 (北海道水産林務部)

14:20～14:40 「森林 GIS の講師歴 20 年から見た過去・未来」

大萱直花氏 (一般社団法人日本森林技術協会)

14:40～14:50 小休憩

14:50～15:40 パネルディスカッション (コーディネーター 村上拓彦氏 (新潟大学))

15:40～15:50 小休憩

15:50～16:50 賛助会員による話題提供

- ・ESRI ジャパン株式会社
- ・株式会社ジツタ
- ・パシフィックコンサルタンツ株式会社
- ・株式会社パスコ

16:50 閉会あいさつ

シンポジウム終了後、近隣で意見交換会 18:00～

シンポジウム講演要旨

基調講演「林業技術者が求める高度森林情報の利用と育成」

鹿児島大学名誉教授 枚田邦宏

本報告では、林業技術者をいくつかに区分し、仕事の場面で森林情報の高度化に関わっているか、歴史的に現場で森林情報の高度化の問題点を述べる。本格的に高度な森林情報の利用がはじまる中で、人の育成は、林業技術者ごとで求められる情報利用は異なることや、就業前後による育成の取り組み、教育機関、研修を組み合わせて育成を行うかを検討する。

「現場で活用できる GIS 技術者を増やすための取り組み」

渋川広域森林組合総務課 高橋雅博

森林組合に GIS 技術者として入社し、現在に至るまで組合内で GIS の普及・指導活動を行っている。本シンポジウムでは GIS 普及の歩みと業務での活用内容及び普及・指導を進めていく上で感じた課題をお話しさせていただく。特に GIS を学んでいない人に利用してもらうにはどうしたらよいかをお話したい。

「実務でのデータ使用を促すことによる林業事業体の森林 GIS 活用に向けた取組」

雲南市農林振興部林業振興課 山本章平

島根県雲南市では令和2年度からリモートセンシングのデータの活用に取り組み、森林の調査を森林 GIS データの作成を前提とした内容で発注し、さらに森林所有者などへ施業提案する場を設定してデータと活用した事業説明を促すなどしてきた。これらをきっかけとして、現在では林業事業体が自らデータを実務で使用する流れができており、官民一体となった森林 GIS 活用の取組として現状を報告する。

「林業普及指導職員によるスマート林業推進の取組について」

北海道水産林務部森林海洋環境局成長産業課 佐藤祥太

北海道の林業は、深刻な人出不足に直面している。この課題を解決するため、林業普及指導職員が中心となり、森林資源管理や造林分野におけるスマート林業推進の取組を進めている。特に私たちは、ドローンや LiDAR 機器の活用が進むよう、実践的な研修を進め、組織内の人材育成に力を入れ全道的な指導体制を整えた。その結果、森林整備事業にドローンを活用する事業者が増加したのでその取組について報告する。

「森林 GIS の講師歴 20 年から見た過去・未来」

一般社団法人日本森林技術協会 大萱直花氏

当協会では 2004 年に創設した森林情報士制度において、森林 GIS 部門の登録者数は 1 級（上級）273 名、2 級（入門）558 名にのぼる。森林情報士の登録者データおよび実習講師を長年にわたり担当してきた経験に基づき、森林・林業分野における GIS の普及状況と今後の課題について述べる。

QGIS の登場により普及スピードが急加速した一方で、行政側において技術の習得に遅れが出ているという課題もある。現場と行政がバランスよく技術を高めていくための研修事例も紹介したい。

賛助会員による話題提供要旨

「森林空間情報と業務 DX をつなぐ ArcGIS 最新情報」

櫻井 洋祐氏 (ESRI ジャパン株式会社)

森林空間情報の活用は、現場業務の効率化や持続可能な森林管理に不可欠です。ArcGIS は森林空間情報を統合し、標準化されたワークフローで GIS 技術者のスキル継承を支援し、GIS プラットフォームとして現場での活用を促進します。今回は、モバイル GIS、リモートセンシング + GeoAI 解析、AI アシスタント、フォトリアリスティックな 3D 表現など、森林業務 DX を支える ArcGIS の最新機能をダイジェストで紹介します。

「ハンディ SLAM を用いた高精細な 3D 空間の再現～3D Gaussian Splatting について～」

中村 拓人氏 (株)ジツタ東京営業所)

ハンディ SLAM で取得したデータを最新技術の 3D Gaussian Splatting を用い、高精細に森林を 3D データ化する技術を紹介します。 当日は実際に森林にて計測したデータを用いて説明を実施します。

「森林 GIS の高度化とデジタル人材育成」

中村 尚氏 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)

私たちは社会インフラサービス事業の一環として、「未来をプロデュースする」というビジョンのもと、森林をグリーンインフラとして活用する仕組みづくりに取り組んでいます。特に林業生産に加え、カーボンニュートラル、生物多様性保全、斜面防災など森林の多面的機能の発揮に向けた仕組みづくりのための、森林 GIS の高度化とデジタル人材育成について紹介します。

「過年度航空写真的森林業務での活用事例」

株式会社パスコ